

第一〇九回
川崎市定期能

能と狂言



能「竹生島」 撮影：山口宏子
(弁財天：角当行雄、龍神：会田昇)



能「巻絹」角当直隆
撮影：吉越研

能
竹生島 女体
梅若玄祥(観世流梅若会)

狂言
樋の酒
三宅右近(和泉流)

15時00分開場
15時30分開演

第二部

◆平成28年12月10日(土)
◆会場：川崎能楽堂
◆入場料：各部 4,000円
(全席指定)
U25 3,000円

※臨正面・中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方、購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

能
巻絹
角当行雄(観世流梅若会)

狂言
呂蓮
三宅右近(和泉流)

12時30分開場
13時00分開演

第一部

◆チケット発売日／平成28年10月12日(水) 午前9時より川崎能楽堂窓口にて発売(先着順) *残券があれば、同日正午より電話でも販売いたします。
◆チケット取扱・お問合わせ／川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37
◆受付時間／窓口・電話 9:00~17:00 *但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

定期能をより楽しむための事前講座 演目や能について出演能楽師が実演付きで分かりやすく解説します。

◆日時：11月19日(土)14時から ◆会場：川崎能楽堂 ◆講師：角当直隆(観世流・シテ方) ◆定員：148名(先着順) ◆料金：無料
*但し、第109回川崎市定期能チケットご購入者が対象となります。 *受講をご希望の方には、チケットご購入の際に整理券(先着148名様)をお渡しいたします。

主催：(公財)川崎市文化財団 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.044-222-8821/FAX.044-222-8817
*開演後にはご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

【第一部】午後1時開演（午後12時30分開場）

狂言 呂 蓮 旅僧 三宅 右近 宿の主人 高澤 祐介
妻 三宅 右矩

能 卷 絹

都の男 川口 晃平
巫女 角当 行雄
勅使 福王 和幸 大鼓 佃 良太郎 大鼓 大川 典良
下人 前田 晃一 小鼓 観世新九郎 笛 杉 信太郎
後見 山中 迺晶 坂口 貴信 小田切康陽
鈴木 啓吾 地謡 谷本 健吾 会田 昇
佐久間二郎 山崎 正道

狂言 呂 蓮

旅の僧の話聞いて、宿の主人は出家を希望します。親類や女房は了解ずみというので、僧は主人の髪を剃ります。名をつけてほしいというので、僧は呂蓮坊と名付けます。そこに妻が来て相談せずに出家したと怒るので、主人は僧に責任を転嫁しますが……。

能 卷 絹

時の帝が不思議な夢をご覧になり、全国の巻絹を集めて熊野三社に奉納するようにとの宣旨が下ります。勅使(ワキ)は熊野に参って諸国の絹を集めますが、都からの分だけが未だに到着しません。

都からの使者(ツレ)は、途中参詣した音無の天神で早咲きの冬梅の匂いに歌ごころをそそられ、心中ひそかに一首を手向けます。しかし、そのため甚だしく遅参し、勅使はその罪を責め縛りあげてしまいます。すると天神の神が巫女(シテ)にのりうつて現われ、手向けの歌を男と連歌して、途中の社参を証明し男の危難を救います。ついで勅使の求めに応じて祝詞をあげ、神楽を舞いますが、しだいに神がかりして物狂おしくなり、あらたな神の物語をはじめます。やがて神は去り、巫女は正気に戻ります。

人に憑依した神霊による、身が踊るような神楽の舞が見どころの能です。

【第二部】午後3時30分開演（午後3時開場）

狂言 樋の酒 太郎冠者 三宅 右近 主 三宅 右矩
次郎冠者 三宅 近成 後見 高澤 祐介
働 金田 弘明

能 竹生島

女 河本 望
龍神 角当 直隆
弁財天 梅若 玄祥 従臣 村瀬 慧
魚翁 福王 和幸 大鼓 佃 良太郎 大鼓 大川 典良
女体 臣下 福王 和幸 小鼓 観世新九郎 笛 杉 信太郎
竹生島神社の社人 三宅 近成 提
後見 小田切康陽 川口 晃平 内藤 幸雄
梅若長左衛門 地謡 坂口 貴信 谷本 健吾 山崎 正道
鈴木 啓吾

狂言 樋の酒

主人の留守に酒蔵を預かる次郎冠者。米蔵を預かる太郎冠者。酒が飲みたい太郎冠者は酒蔵から米蔵に樋を掛け渡して酒を注いでもらいます。我慢できなくなった太郎冠者は米蔵から出て酒蔵に行き、次郎冠者と二人で謡い舞う酒盛となりますが……。

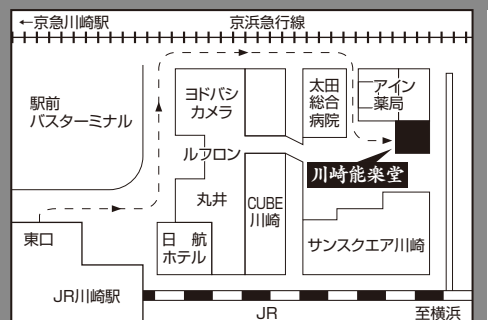
能 竹生島

醍醐天皇に仕える臣下(ワキ)が、竹生島明神に参詣しようと、琵琶湖畔までやってきます。ちょうど、漁翁(前シテ)が若い女(前ツシ)を伴って釣り船を出しているのので、声をかけて便船を頼みます。漁翁は快く彼を船に乗せ、のどかな浦々の景色を楽しみながら、竹生島に向かいます。臣下は、つれの女も一緒に来るので、この島は女人禁制と聞いて

いるが、と問うと、漁翁と女は、弁財天は女性の神であるから女人を分け隔てはしないと言ひ、この島の明神の由来を語ります。やがて二人のものは、実は人間ではないといつて女は社殿の扉の内に入り、漁翁は波間に姿を消します。(中入り)

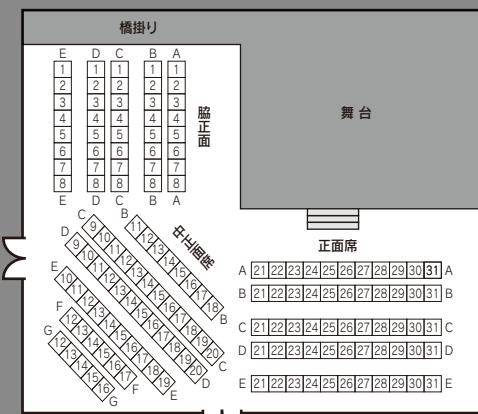
しばらくすると、社殿が鳴り動いて、弁財天(後シテ)が出現し舞をまいます。つづいて龍神(後ツシ)が水中より出現して、臣下に金銀珠玉を捧げ、激しい舞を見せます。そして、弁財天と龍神は、国土鎮護を約束し、弁財天は再び社殿に入り、龍神は湖水へと飛んで入ります。

川崎能楽堂案内図



JR川崎駅東口より徒歩5分
■アクセス(JR川崎駅まで)品川駅より約9分 横浜駅より約8分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
川崎能楽堂
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
TEL.044-222-7995 FAX.044-222-1995

川崎能楽堂座席表(148席)



※U25券は脇正面席・中正面席のみ選択可。

次回公演のお知らせ

平成29年1月21日(土)

芸能サロン

「狂言を楽しもう」

出演:野村万歳 ほか

平成29年3月11日(土)

第一二〇回川崎市定期能

出演:田邊哲久 ほか